

多職種が講義を行う本校の『災害看護論』について 専任教師 木下 まゆみ

本校は「災害看護論」で、多職種の先生方に多岐にわたる講義をお願いしています。今回はその一部を紹介したいと思います。

まず、地域のハザードマップを含む学校・病院防災として田中昭先生に担当して頂きました。今年度の新たな取り組みとして、4月に3年生が1年生と共に地域を徒歩で回り、危険箇所をマップにしました。他学年との合同授業は様々な成果がありました。他にも、柿本雅彦先生に基幹災害拠点病院としての機能や救護班について、五十嵐佳奈先生にはトリアージについて、坂本昌也先生(京都府防災監)には防災計画や消防との連携について、近藤松子先生には国際救援活動について教授して頂きました。MEの宮下誠先生にはモデル人形を用意して頂き、二次救命処置の対応を当直医師役として教師と共演して頂きました。そして、高階謙一郎先生には救急医療やDMATについての講義と演習を担当して頂きました。演習では、学生が赤十字の救護服に身を包み、指揮、トリアージ、各エリアに分かれて行動します。救急部の竹上徹郎先生、的場裕恵先生、京都府支部の方々にも協力して頂きました。学生は「情報共有の大切

さ」「救命処置と同時に傷病者に対する声かけの重要性」「焦ったときの自身の行動特性」「知識・技術不足」「短時間での判断の難しさ」等多くの事を学びました。

先日、災害基礎教育セミナーに参加しましたが、本校の様に多職種の方々が講義を担当し、学生の成長を助けて下さっている学校はありませんでした。このような恵まれた環境で学べる学生は本当に幸せだと感じます。

どうぞ今後とも学校教育にご協力の程、宜しくお願い致します。

